

2014年12月26日
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
一般財団法人リモート・センシング技術センター

人工衛星データを活用した ミャンマー専用の『天候インデックス保険』を開発

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：二宮 雅也、以下「損保ジャパン日本興亜」）と一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長：池田 要、以下「RESTEC^{※1}」）は、ミャンマーの農家を対象にした『天候インデックス保険^{※2}』を共同開発しました。今後、ミャンマーの保険会社を通じ、2015年度からの販売開始を目指します。

※1 RESTEC…人工衛星等を利用して、地球の現状を探査するリモートセンシングに関する総合的研究開発、サービス提供を行う一般財団法人。

※2 『天候インデックス保険』…天候指標（降水量、気温など）が、あらかじめ定めた条件を満たした場合に、契約上定められた保険金をお支払いする保険。

1. 『天候インデックス保険』開発までの経緯

「アジア最後のフロンティア」として、世界的な注目を浴びているミャンマーは、GDPの約4割を農業が占めていますが、近年の気候変動によって、干ばつや洪水などの自然災害が多発しており、農家に多大な被害をもたらしています。

損保ジャパン日本興亜は、気候変動に対する適応策として、ミャンマーの隣国であるタイの稲作農家向けに『天候インデックス保険』を2010年から提供しています。

ミャンマーにおいては、2014年9月に両国大臣が出席する「日緬農林水産業・食品協力対話ハイレベル会合」で、当社『天候インデックス保険』が同国の農業分野に対して貢献できることを紹介し評価をいただくなど、これまでミャンマー政府と連携しながら本商品の開発を進めてきました。

しかし、ミャンマーは気象観測のためのインフラと過去からの気象データが十分ではなく、『天候インデックス保険』の開発に大きな障害となっていました。

そこで、損保ジャパン日本興亜は、衛星リモートセンシング技術^{※3}について豊富な知見を有するRESTECとともに、宇宙航空研究開発機構（JAXA）^{※4}が提供する衛星全球降水マップ（GSMaP）^{※5}等の人工衛星データを活用することで、ミャンマーにおいても、『天候インデックス保険』を共同開発することに至りました。人工衛星から推定された雨量を活用した『天候インデックス保険』の開発は、日本初になります。

※3 衛星リモートセンシング技術…人工衛星に搭載した観測機器（センサ）を使い、離れた位置から地球表面等を観測する技術。

※4 宇宙航空研究開発機構（JAXA）…宇宙航空分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して
行う独立行政法人。

※5 衛星全球降水マップ（GSMaP）…JAXAが提供する全球降水マップの名称。日米欧などの
人工衛星データから1時間ごとに作成。

2. 『天候インデックス保険』の概要

（1）保険対象者（被保険者）

対象地域の農家

（2）対象作物

米、ゴマ

（3）対象地域

マゲ管区、ザガイン管区を含むミャンマーの中央乾燥地帯

（4）対象リスク

干ばつ（雨季の少雨リスク）

（5）補償内容

人工衛星から推定された雨量が事前に定めた値を下回った場合に、事前に
定めた金額を保険金としてお支払いします。

3. 今後の展開

損保ジャパン日本興亜とRESTECは、今回の対象リスクとなっている干ばつ以外にも、
サイクロンや多雨のリスクを対象にした『天候インデックス保険』の開発に着手しており、
今後もミャンマーにおける気候変動に適応する商品やサービスの開発を強化していきます。

以上